

会社の情報守りきれていますか？



セキュアソフト 代表取締役社長 姜昇旭氏

対談

東京大学 名誉教授

伊藤元重氏

(カン・スンウク) 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。2002年セキュアソフトを立ち上げ、代表取締役社長に就任。14年にはセキュアソフトテクノロジーを設立し、代表取締役社長を兼任。15年にはサービス&セキュリティ(SSK)の代表取締役社長を兼任。現在、セキュアソフトを含む3社の社長を兼務している。



ITの加速度的進化でリスクは増大——伊藤氏 監視サービスを軸に総合的なサポート——姜氏



(いとう・もとしげ) 経済学博士。専門は国際経済学。東京大学名誉教授。東京大学大学院教授を経て2016年4月学習院大学国際社会科学部教授、6月東京大学名誉教授。2013年より6年間わたり経済財政諮問会議の議員を務めたほか、税制調査会委員、公正取引委員会独占禁止懇話会会長などの要職を務め、政策の実践現場で多数の実績を有する。また住友化学、静岡銀行など社外取締役も兼務している。セキュアソフト顧問。著書多数。

攻撃リスクは深刻化 問われる経営者の意識

伊藤 「半導体の集積率は18カ月で2倍になる」というムーアの法則に見られるように、ITの変化・進化は加速度的です。その急激な変化はITに関連するあらゆる領域に及び、ITを利用している企業・団体から個人まで、社会のあらゆる分野でサイバー攻撃のリスクが増大しています。そのため極めて深刻・切迫した状況の中で、サイバーセキュリティの重要性が急速に高まっていると認識されています。

姜 同感です。AIやIoT、5Gなど、新たなテクノロジーが普及段階に入ってきています。こうした新技術が生み出す世界ではサイバー攻撃の手法も高度化・多様化しており、防御を主目的とする高価なセキュリティ製品を導入するだけでは、企業の重要資産は守り切れなくなってきました。木を見て森を見ず¹ではないですが、しっかりと全体を見渡して、総合的な対策を実行することが必要になります。24時間の有人監視や問題発生時に即応できる態勢を整え、正常な企業活動が維持できるような総合的なサイバーセキュリティ対策が不可欠だと考えます。

伊藤 残念なことに、私たち人間のメンタリティーや企業の仕組みはITのように加速度的には変化できないようです。総合的なサイバーセキュリティ対策をしっかりと実施している企業は、実際にはまだまだ少ないのではないのでしょうか。いま必要なのは自らの意識を変え、早急に必要サイバーセキュリティ対策を実行すること、それが、現代の経営者に問われていることだと思います。

姜 仰る通りです。海外企業を中心に、最高情報セキュリティ責任者(CISO)を任命する例が増えてきました。これまでは最高経営責任者(CEO)や最高情報責任者(CIO)が兼務することが多かったのですが、企業におけるセキュリティ対策の重要性が増し、専門的な人材を配置しなければ企業のセキュリティを確保できない時代になったことを思います。

最新鋭の基盤生かした「eGate」に注目

伊藤 多くの日本企業がサイバー攻撃を受け、被害が出ていると見られています。公表に至る例は氷山の一角です。そのことが実態を見えにくくしていることは否めません。

IT(情報技術)の進化は加速度的だ。AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)など新たなテクノロジーが普及段階に入り、2020年から始まる次世代高速無線通信「5G」により身の回りのあらゆるアイテムがワイヤレスでネットワークにつながるようになる。それに伴い、企業経営を脅かすサイバー攻撃のリスクは増大。多様化する脅威に企業はどう対応すべきだろうか。東京大学名誉教授の伊藤元重氏とセキュアソフト社長の姜昇旭氏が、サイバーセキュリティを取り巻く環境の変化や今後の展望などについて語り合った。

欧米では情報漏洩などサイバー攻撃による被害をメディアが積極的に伝えます。そのことが社会全体のサイバーセキュリティ意識を高め、新たな被害を防ぐことにつながっている側面があります。しかし、日本は必ずしもそういう状況ではありません。

伊藤 多くの日本企業がサイバー攻撃を受け、被害が出ていると見られています。公表に至る例は氷山の一角です。そのことが実態を見えにくくしていることは否めません。

いて様々な企業の経営幹部と話をすると、一般論は非常によく理解されていると思います。その一方で、自社で組織的に取り組んでいるか、総合的なセキュリティ対策を実施しているかと尋ねると、必ずしも適切な答えは返ってきません。

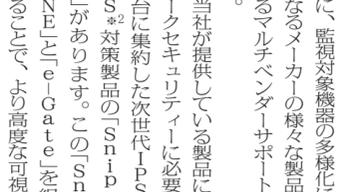
姜 そうした企業の課題解決をお手伝いするため、当社グループ会社のサービス&セキュリティ(SSK)は大阪にセキュリティオペレーションセンター(SOC)を開設しました。このセンターに次世代型の監視システムを導入し、総合セキュリティサービス「eGate(イーゲート)」を提供しています。このセンターで、社内から集めた優秀な人材をセキュリティスペシャリストとして育成して、お客様の重要な情報資産を守るためのセキュリティ業務を行っています。

伊藤 その最新の監視センターには、どんな特徴がありますか。

姜 顧客企業のシステムを24時間365日、有人監視するとともに、最新のAIなどを活用して迅速かつ高精度な攻撃検知を行い、的確な通知とサポートを行うことが第一の特徴です。さらに、監視対象機器の多様化に対応し、異なるメーカーの様々な製品を監視できるマルチベンダーサポートが特徴です。

伊藤 企業が提供している製品に、ネットワークセキュリティに必要な機能を1台に集約した次世代IPS^{※1}、DDoS^{※2}対策製品の「Sniper ONE」があります。この「Sniper ONE」は、クラウド環境のセキュリティ対策で多くの実績がある製品の運用監視に加えて、防御すべきシステムの脆弱性診断やセキュリティ対策コンサルティング、システムの構築支援まで総合的なサービスを提供しています。運用監視の内容は分かりやすくを重視し、顧客企業の経営判断に資するように工夫しています。

お問い合わせはこちら！
TEL 03-5464-9966
E-Mail : sales@securesoft.co.jp
SSI : https://www.securesoft.co.jp/
SSK : https://www.ssk-kan.co.jp/



次世代IPS、DDoS対策 [SecureSoft Sniper ONE]

現在日本のサイバーセキュリティ業界を眺めてみると、直面する課題は実力と経験がある専門人材が不足していることです。待遇やキャリアパスなど、若者が希望を抱いて業界に入れるような環境を作っていないか、それとなく強く思っています。

伊藤 新しい技術や機械が発明され、社会に欠かせないものになるにつれて関連する仕事が増え、その仕事に従事する人材は社会的地位が高まり、優秀な人材が集まるようになります。サイバーセキュリティの世界は日々進化する攻撃に新しい技術が発明されています。その結果、セキュリティ人材の社会的地位は日増しに高まっていくでしょう。その変化を加速するためにも、御社のようなリーディングカンパニーが新たなビジネスモデルとキャリア形成の仕組みを構築し、若者と社会にアピールしていくことが大切です。

姜 ありがとうございます。当社は監視サービスを軸にしたセキュリティサービスに加え、顧客企業へのセキュリティ人材の派遣および、高精度で好評をいただいている次世代IPS、DDoS対策製品の「Sniper ONE」の提供まで行っています。サービスはトータルソリューションにより、日本一のサイバーセキュリティ企業を目指します。

